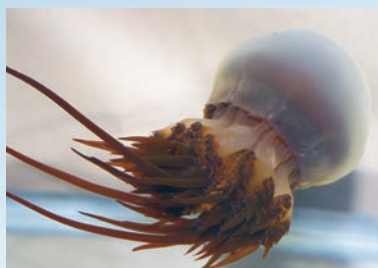


有明海の生き物



■クラゲ

有明海に生息するクラゲ類には、ピゼンクラゲやヒゼンクラゲが食用として多く漁獲されています。水揚げしたものをミョウバンや塩に漬けた後、酢の物やごま和えにして食べます。



■ハゼグチ

日本では有明海と八代海の湾奥部だけ生息しています。マハゼと似ていますが別種です。寿命は1年です。



■ムツゴロウ

ハゼ科の水陸両生魚で、日本では有明海と八代海（不知火海）の一部のみ生息しています。潮が引いた干潟で表面にいるケイトウ類を食べ、潮が満ちてくると泥の中の巣穴に入ります。



■ガザミ

有明海に棲むカニの代名詞的存在で太良町ではタイラギとならぶ稼ぎ頭です。太良町地先で捕れるガザミを特に「竹崎ガニ」と称し、姿がよく美味しいです。



■ウミタケ

海底に殻から伸びた茶褐色の水管が葎のように見えることから「海茸」と表記されることがあります。「ねじ棒」や「簡易潜水」で漁獲されたものは、水管部分を干物や粕漬にします。



■ワラスボ

ムツゴロウと同じハゼ科の魚です。泥干潟に砂穴を掘って住んでおり、潮が満ちると巣穴から出てきて、小魚やエビ、貝など何でも餌にします。有明海では広く漁獲され、干物や煮付け等にして食べられます。